

立石はるやす「決意表明」要旨

昭和46年4月、私はここに立ちました。両親も健在、地域の皆様に育てられて3期10年、区議会を勉強させて頂き、のち、39歳で昭和56年、1981年に東京都議会議員に当選をさせて頂きました。

以来今日に至るまで、多くの出来事がありました。この中央区のぬくもり、あたたかい皆様の人情を、のちの世に伝えていくことこそが、私の原点です。東京中に、そして日本中に。

なぜ9期目に挑戦するかという理由を申し上げます。

1つは、気づいてみればあまりにも多くの格差が生じたということでもあります。正規社員がいれば非正規社員がいる。結婚を希望しながらも忙しさに結婚ができない。あるいはまた婚活、産休、育休、学童保育…多くの困難の中に若者たちが、元気ではあるが悩んでいます。

私は同志社大学の教授で柴田悠さんという若い学者さんの書を読んで、目から鱗が落ちました。それはどういうことかということ、まず青少年に夢がもてるような社会を築いていかなければならない。その為には、家庭を持ちたいと願う若者が安心して結婚できるよう、婚活をサポートしなければならない。また子育てと仕事を両立できるよう、産休育休を取りやすくし、学童保育の量と質をアップしなければならない。そのことによって国内総生産を拡大することができる、負の連鎖からプラスの連鎖に変わっていく、このことこそが日本が再生することのできる1つの方法だ。その書を読んで私はなるほど、なるほどと思いました。

そして、今日までご苦勞頂いたご先輩の世代の皆さんが、孤独な思いをすることなく、大勢の近隣に囲まれ、家族に囲まれて過ごすことのできる社会が完成していくと信じています。

今日は6月4日、いよいよ梅雨がしまろうと雨のことを大変心配しておりました。お客様が果たして寄って頂けるだろうか、そんな心配をしておりましたが、こんなに大勢のお客様がご多用の中にもかかわらず、曲げてご参集を頂きました。何回か選挙をやらせて頂きましたが、こんなに感動したことはありません。心から感謝御礼を申し上げます。

そして私は長いこと矢田区長さんと30年近く、そして自民党とは40年以上、ご一緒をさせて頂きました。なぜ、その自民党を5月9日に離党し、会派を離脱したか。2つの理由がありました。

1つは築地市場問題です。自民党は豊洲移転が党議で決定いたしました。私は築地にこそ利ありというふうに思っているのです。丁度私が当選いたし

ました 1981 年代から 87 年をピークに 1200 軒の仲卸さんがありました。その 1200 軒の仲卸さんが持つ鑑札が、何と 1 億から 2 億もしていたんです。ところが今は、500 万から 700 万程度でもいい顔をしない。右から左に、という流通の形態ではなくなった。1200 軒あった仲卸さんは現在どのくらい残っているかという、574 軒です。

この変化は一体何だったのかというと、流通の機構が基本的に変わったということです。我々は薄型テレビを購入するのに大型店に行って買うことも増えたわけですが、同じように、本来であれば築地を経由しなければならぬ中央卸売市場法がありますが、今は浜から直接、大型スーパーへ直取引をしています。よって、市場の風景が全く変わったということです。将来において、このことを非常に考慮しなければならない。

しかも、今日現在、豊洲に行きますと年間 76 億、赤字になるんです。じゃ、築地はどうかというと、年間 15 億、築地は赤字になってます。差額が 61 億。結果、仮に 10 年経てば、610 億円の赤字です。

それがいわゆる一般会計、皆さんの税金から、引かれて、使われる。先ほど申し上げました、若者たちへの手当て、お年寄りの安定した生活にこそ、税金は使われなければなりません。そのことがまず、どうしても私が自民党にいられない一番の理由でありました。

2 番目の理由。私は、舟坂さんという自民党の都議会議員と 2 人で、百条委員会で真相を究明しようと思いました。あると思った床に盛り土もすきとりもなかった。そんな大事なことを一体誰が決めたんだ、いつどこで誰が。しかも 6000 億円もかけて。

860 億もかけて無害化すると言いながら、現在でも 100 倍のベンゼンほか出てるんです。

皆さんよく考えて下さい。6 年前、あの東日本大震災がありました。その時に築地はビクともしませんでした。なぜか。なぜならば、神田山を山砂を削って、佃の漁師が振袖火事ののち、大八とモッコをかついで、築地を作ったからです。山砂は専門的に言えばどんどんしまっていく土質です。したがってどんどん固くなった。東日本大震災の時も、ビクともしなかった。

方や荒川沖、ヘドロの堆積によって、さらに浚渫してできたのが豊洲です。これはまぎれもない事実です。どんなにがんばっても、有害なところですよ。それを、隠した。

つまり、浜渦当時副知事と赤星当時政策報道局長が、百条委員会で偽証を致しました。しかし自民党は、偽証にあらずという結論を出しました。

これは間違っている。断じて間違っている。ちゃんと証拠も残っているし、もう分かっていることだから、断じて、百条委員会で偽証ありとして判定すべ

きであるということ、私は申し上げました。自民党以外は全部、偽証ありという立場です。

そういうことから、この2つはついていけないぞと考えました。自分の信念を曲げてもしようがない。せつかくみんなに、40年も50年も前からこの町の皆さんにお育て頂いた立石はるやすが、嘘をついたらいかん。こう思って、党を出ました。

自民党の現職で、公認にしなかったのは私だけです。なぜ公認にしなかったのか。しかし、そのことは私は少しも怨んでおりません。今も消防団へ行ってきましたが、区議会の議員仲間たちに会いました。皆にニッコリ笑って言いました。「選挙はすぐ終わるよ。選挙なんかすぐ終わるんだ。また仲良く皆でやっでいこう。皆のことなんか全然怨んでないよ。そんな問題じゃない。僕がやりたいのは、僕がやりたいのは、負の連鎖を黙って放っていたんでは、ダメだと。

いつの間にか、自民党がエイエイオーと、狭い箱の中に、枠の中に閉じこもってしまって、自由闊達に発言をする機会が失われてしまった。

これは間違いだ。これは間違いだ。こんなことをやっていたら都民国民の皆さんに迷惑がかかる。そこで私は喜んで離党致しまして、記者会見をさせていただきました。新聞テレビでも放映をして頂きました。記者会見場には、私が一人で立ち、そして記者さんの皆さんが、100名近く寄ってくれました。そして、私のことを次の日に記事に書いてくれたのであります。

私は、千万人といえども正しいことならば突き進んでいくんだ。これが政治を志した私の少年時代からの信念であります。

繰り返します。大変大変苦しい挑戦です。今まで12回の挑戦を経験いたしましたが、こんな苦しい挑戦はありません。しかしよくぞ、ここまで皆さんが、お集まりの皆さんが支えてくれました。感謝にたえません。何としても、この皆様の熱意と情熱をしっかりと期間中お訴え申し上げたい。人に怨みもつらみもありません。日本の国も、この東京からしっかりと真実を、真相を語って、負の連鎖からプラスの連鎖にしていかなければならないということ、を主張したいと思います。

長時間ありがとうございました。